

## 令和元年度事業報告

昨年5月に改元が行われ「令和」となった最初の年度となりました。

米国や欧州などをはじめ世界各地で政情不安が続くものの、日本の社会・経済情勢は雇用や所得環境の改善により緩やかな回復基調が続いてきたところです。国では8年連続で過去最大の予算編成を行い経済の再生と財政健全化を目指していますが、国、地方とも厳しい財務状況が続き、高齢化の進展等による社会保障費が増大する中、介護保険制度の改正等により法人運営は厳しい状況が続いています。

さて、令和元年末に中国で始まった新型コロナウイルスの感染は、日を追って世界中で爆発的に拡大し、日本では流行が少し遅れたもののその後の広がりや影響はご承知の通りです。収束の見通しがつかない中、本年2月以降、各国でロックダウン(都市封鎖)等の非常事態対応がとられており、日本でも緊急事態宣言の発令等こうした状況から脱するための模索が続いています。

3月25日からは生活に影響を受けている方々に対する緊急小口資金と総合支援資金の特例貸付が始まり、全国の市町村社協が窓口となって貸付希望者への対応を続けているところです。田辺市でも感染者が発生するなど影響を受けていますが、社会のあらゆる分野で感染防止に向けた対応が続いています。しかしながら、社協においても特例貸付の受付で多忙を極めるものの、本来業務の介護予防教室や地域における活動・事業が中止や延期となり、先行きもなかなか見通せない中で収入にも影響が出ており、対応に苦慮しているところです。

また、流行の終息後も従前の状態に完全に復することは困難との見方もされており、今後の状況に即した新たな生活や経済・社会活動の在り方が問われています。

一方、成年後見制度利用の促進と権利擁護体制構築に向けた市町村や社協の積極的な取組が求められている中、社協も市と検討・協議を続けた結果、権利擁護センターを設置・運営していくことになりました。

さて、昨今、地震や台風、豪雨等による災害が毎年続けて各地で発生しておりますが、令和元年度も度重なる大雨や台風により、北部九州をはじめこれまであまり例を見なかった関東から東北にかけても大水害に見舞われました。本会でも全国の社協と協力して職員を派遣し、被災地支援に努めてまいりました。また、台風19号の影響により初めて福祉映画会の日程を大幅に変更して実施いたしました。

こうした中、県社協とともに災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施し、近隣社協とも連携・協力しながら災害対応能力の向上に努めました。

混んとした社会情勢の中ではありますが、今後も他の福祉法人や事業者などとも協力しながら、地域住民に寄り添い地域福祉の推進に取り組んで、社協本来の責務であります地域における公益的な取組や貢献を果たし、引き続き健全かつ適切で円滑な法人の運営と事業の推進に取り組んで参ります。

## 1、地域福祉を支え合える人づくり・つながりづくり

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するための仕組みである「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、支え合う地域づくりの担い手となる地域ボランティアや福祉・介護を支える人材の確保が緊急かつ重大な課題です。介護予防・日常生活支援総合事業が本格実施され3年目となりましたが、生活支援コーディネーターや協議体を中心となって、ホッと講座、いきいきシニアリーダーカレッジ、ボランティアスクール等各種研修会を開催し、地域づくりの担い手の育成やサロン活動の立ち上げ支援等を行い、高齢者の社会参加及び生活支援の充実に努めました。

また、福祉・介護分野の慢性的な人材不足に対して、紀南福祉人材バンクを軸に福祉職場への就労定着支援や人材確保に努めると共に、福祉への関心を高め理解を深めるために各種イベントや福祉教育を実施しました。

### (1) 地域福祉・ボランティア活動等の支援と協働促進

～ボランティアセンター機能の充実とボランティア活動の支援～

#### ①ボランティアの楽しさを伝える取組み

(ア)ホッと講座の開催(よりみちサロンいおり) 11回開催 受講者 延べ167人

(イ)ボランティアスクール・各種ボランティア啓発講座の開催

・ボランティア講座及び防災研修等 22回開催 受講者 延べ458人

#### ②ボランティアを育成する取組み

(ア)生活支援体制整備事業の受託運営

・生活支援コーディネーターの配置(全地区)

＊協議体の設置～生活支援体制整備検討会議の開催 全地区 計12回開催

＊総合事業基準緩和型サービス事業研修の実施

ご近所ボランティア講座 13回開催 修了者 延べ61人

(イ)いきいきシニアリーダーカレッジの開催(和歌山県社協、田辺市 共催)

・おもてなしコース(田辺地区 2ヶ所)

『ねんりんピックを応援しよう！&和歌山の魅力発見！』

＊田辺・西牟婁圏域(ビックU) 10回開催 受講者 17人

＊御坊・日高圏域(田辺市民総合センター) 10回開催 受講者 40人

#### ③ボランティアのマッチング

(ア)ボランティア登録、紹介とあっせんの活動支援

・登録者486人、紹介あっせん数 延べ1,362人

・その他のボランティア等相談支援 合計168件

(イ)ボランティア保険加入促進

・ボランティア活動保険 加入者 2,242人

・ボランティア行事用保険19件、福祉サービス総合補償5件、

サロン・社協行事保険 20 件（内 サロン保険 17 件）

④住民参加型在宅福祉サービスの活動支援

（ア）田辺市ともしび友愛ヘルプの会の活動支援（田辺地区）

提供活動 1,638 件、提供時間 2,490 時間、利用会員 28 人、提供会員 26 人

（イ）助け合い事業の運営（大塔地区）

家事援助等 23 件、利用会員 3 人、協力会員 3 人

⑤ボランティア連絡協議会の開催

正副会長会議の開催（8 月 21 日）

・「ボランティア・市民活動をめぐる現状と課題」

講師 和歌山県社会福祉協議会 協働推進班主任 南出 考氏

・5 地区ボランティア連絡協議会活動報告及び意見交換会

（2）気づきと出会い、学びの場づくり

①小中高等学校への福祉教育支援活動の実施

（ア）小中高等学校における福祉教育支援活動～紀南福祉人材バンクと連携

当事者やボランティア、社協職員を福祉教育の講師として派遣しました。

また、施設訪問のコーディネート、社協施設への受け入れを行いました。

・支援件数 26 校 84 回（小学校 16 校、中学校 8 校、高校 2 校）

（イ）福祉教育教材の配布

（ウ）福祉教育推進校連絡会による研修会の実施

7 月 22 日 田辺市民総合センター 4 階 交流ホール 参加者 39 人

説明「福祉教育の推進と充実について」～田辺市教育委員会

講演「肢体不自由のある方への理解」

講師 中田 充 氏

車椅子介助体験～田辺市社会福祉協議会

（エ）小中学校向け福祉教育推進助成制度の運用

こどもボランティア推進事業助成(776,435 円)

・助成 29 校(小学校 21 校、中学校 8 校)

②福祉交流事業の実施

（ア）市民福祉映画会の実施(田辺市共同募金会・(株)紀伊民報 共催)

・令和 2 年 1 月 25 日「あの日のオルガン」上映 合計 1,910 枚販売

（イ）「明日へのかけ橋フォーラム」及び「ふれあい文化祭」の開催

・「明日へのかけ橋フォーラム」の開催（2 月 14 日 ガーデンホテルハナヨ）

第 1 部 社会福祉功労者表彰式 約 200 人来場

第 2 部 地域福祉講演会

・認知症のことを知ろう！

田辺市やすらぎ対策課 地域包括支援センター

・【寸劇】

田辺市認知症キャラバン・メイト

・認知症の人への対応についての総括

・「第 26 回ふれあい文化祭」の開催（2 月 15～16 日 ガーデンホテルハナヨ）

＊延べ来場者 3,581 人 市内約 200 福祉施設参加

＊舞台発表や作品展示、模擬店

（ウ）広報活動や研修活動の強化～地域における福祉教育

・福祉委員研修会の実施

・福祉教育の機材の貸出～高齢者疑似体験

（３）福祉人材の育成・定着支援

①福祉人材バンク事業（福祉人材無料職業紹介事業の実施）

（ア）求人相談件数 986 件、新規求人数 1,593 人

（イ）求職相談件数 831 件、新規求職者数 319 人

（ウ）紹介数 45 人 就職数 31 人

②福祉・介護人材マッチング機能強化事業

（ア）福祉・介護職場就職面接会・フェアの実施

・福祉・介護のしごとフェア（8 月 11 日、2 月 9 日 年 2 回開催：田辺市）

福祉施設・事業所と福祉職場に就職を希望する方々と直接面談する場、資格取得に関する相談コーナー等を設け、福祉職場への就労支援や人材確保を図りました。

＊来場者 93 人、参加施設 64 施設、内定者 10 人

・福祉・介護のしごと面接会の実施（11 月 22 日 年 1 回開催：新宮市）

＊来場者 7 人、参加施設 8 施設

（イ）介護未経験の中高齢者等を対象にした就職相談会（8 月 11 日、2 月 9 日）

・介護未経験の中高齢者等を対象にした就職相談会を開催しました。

＊来場者 13 人、参加施設 11 施設

（ウ）学校訪問、福祉のしごと出張講座

・学校訪問 延べ 16 校 出張講座 4 校

（エ）福祉のしごと応援カフェ（出張相談） 延べ 15 回開催

（オ）潜在的有資格者の再就職促進（田辺市と新宮市）

・田辺市：10 月 18 日 参加者 18 人 新宮市：11 月 22 日 参加者 10 人

（カ）職員のキャリアアップ支援

・定着支援セミナーの開催（田辺市）

「介護現場の外国人介護スタッフ受入セミナー」

9 月 3 日 参加者 19 人

「介護現場の可能性を広げる生産性向上セミナー」

2月3日 参加者 18人

・福祉の「しごと塾」の開催

福祉の資格取得(介護支援専門員、介護福祉士、社会福祉士)を目指している方を対象に受験対策講座を実施し、福祉人材の育成を図りました。

＊介護支援専門員受験準備講座 6回 受講者 6人

＊介護福祉士受験準備講座 6回 受講者 18人

＊社会福祉士受験準備講座 4回 受講者 9人

(キ)福祉の仕事 職場体験

(ク)福祉の仕事イメージアップ事業

・広報紙による福祉・介護の仕事のPR

③保育士人材確保事業

(ア)保育所訪問 31ヶ所

(イ)潜在保育士再就職支援研修

10月24日 参加者 5人、10月25日 参加者 5人

(ウ)保育士サロン「ふおすたーサロン」

6月12日 参加者 4人、9月11日 参加者 4人、1月24日 参加者 0人

(エ)保育士なんでも相談

潜在保育士の再就職に関する相談支援及び情報提供、現職保育士からの相談支援等を行いました。

## 2、地域福祉を支え合えるしくみづくり

地域包括支援センターを受託運営し3年目となりましたが、地域住民の相談を包括的に受け止める機関として定着していく中、公的機関や専門職又は地域の様々な関係者と連絡調整を図りながら、課題解決に向けたきめ細かな相談支援体制の充実に努めました。

また、成年後見制度利用促進に向けた体制整備を図るために様々な研修会に参加する中、先進地である「権利擁護センターあだち」(東京都足立区社会福祉協議会)に視察研修を行い、中核機関の設置・運営について研鑽を深めました。

福祉に関する様々な情報を提供するため、広報紙をはじめとする様々な媒体を活用し、幅広く情報発信しました。

### (1) 地域生活を支援する相談機能の充実と連携の促進～包括的な相談支援の充実～

#### ①地域型地域包括支援センター運営事業の受託

(ア)専門職の配置(社会福祉士及び主任介護支援専門員)

(イ)総合相談件数(龍神120件 中辺路211件 大塔113件 本宮188件)

(ウ)小地域ケア会議の開催・運営(龍神4回 中辺路5回 大塔6回 本宮6回)

(エ)介護予防ケアマネジメント(龍神1,363件 中辺路1,311件 大塔742件 本宮1,177件)

(オ)実態把握調査総件数(龍神 905 件 大塔 386 件 本宮 404 件)

## ②生活福祉資金貸付事業及び生活困窮者自立支援事業(家計相談支援事業)の実施

### (ア)生活福祉資金貸付事業の実施

他制度で融資を受けることが困難な低所得世帯、高齢者世帯、障害者世帯を対象に生活福祉資金の相談対応を行いました。

また、3月25日からは新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等の方々に生活福祉資金(緊急小口資金・総合支援資金)の特例貸付も併せて実施しました。

- ・相談件数 延べ160件(内 新型コロナウイルスの特例貸付53件)
- ・新規相談60件(内 新型コロナウイルスの特例貸付21件)
- ・新規貸付決定件数18件(内 新型コロナウイルスの特例貸付10件)
- ・償還指導回数38回

### (イ)生活困窮者自立支援事業(家計相談支援事業)の受託運営

生活困窮者の生活の自立を支援するために、家計の視点から必要な情報提供や専門的な助言・指導等を行いました。

- ・家計相談支援事業 継続支援者7人

## ③福祉サービス利用援助事業及び成年後見制度(法人後見事業)の実施

### (ア)福祉サービス利用援助事業の受託運営

判断能力に不安があると感じている人を対象に、金銭管理や福祉サービスの利用に関する相談援助事業を実施しました。

- ・新規契約者18人(高齢者9人、障害者9人)
- ・令和元年度末 利用者93人(高齢者43人、障害者50人)

### (イ)法人後見事業の実施

成年後見制度についての相談に応じ、判断能力が十分でない方を対象に法人として後見人を受任し、身上配慮や財産管理の支援を行いました。

- ・受任件数1件(障害者)

### (ウ)成年後見制度と権利擁護体制整備に向けた研修会への参加

成年後見制度利用促進の体制整備に向けた研修会に参加するとともに、先進地視察を行いました。

- ・成年後見制度利用促進に向けた体制整備研修会(8月26日)
- ・成年後見制度市町村長申立研修会(9月27日)
- ・家事関係機関との連絡協議会(12月16日)
- ・成年後見制度・くらしなんでも相談会(1月11日)
- ・成年後見制度関係機関連絡会議(2月18日)
- ・「権利擁護センターあだち」視察研修(3月12日)

#### ④地域生活支援事業の実施

##### (ア)田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」との連携

ふたば福祉会、やおき福祉会、県福祉事業団と当社協の4法人による障害児・者相談支援センター「ゆめふる」で、就労から生活全般にわたる相談援助を行いました。

- ・個別相談件数 延べ 13,002 件

##### (イ)基幹相談支援センター等機能強化事業の受託運営

基幹相談支援センター等機能強化事業を受託し、西牟婁圏域における相談支援事業の機能強化に取り組みました。

(西牟婁圏域自立支援協議会への参画)

- ・事務局会議 12 回、定例会 5 回、全体会 1 回、相談支援専門員フォローアップ研修 2 回

##### (ウ)レクリエーション教室（自立生活プログラム）の開催

障がい者が社会で自立した生活を維持していくために必要な対人関係・金銭管理・健康管理等の生活技能を学ぶプログラムを実施しました。

- ・自立生活プログラム(料理教室等) 22 回開催 参加者 延べ 180 人

##### (エ)一般及び特定相談支援事業の実施

障害者支援施設や精神科病院等からの地域移行・地域定着に向けた取り組みやサービス等利用計画の作成に取り組みました。

- ・サービス等利用計画の作成（新規・更新）延べ 88 件
- ・モニタリングの実施（サービス等利用計画見直し）延べ 200 件

##### (オ)知的障害者等意思疎通支援者派遣事業の実施

知的障害又は精神障害者等の意思疎通を図ることが困難な方に支援者を派遣しました。

- ・利用者 2人

#### (2) 地域福祉・ボランティアの情報を分かりやすく伝える取組み

～広報啓発活動の推進～

##### (ア)広報「福祉日和」の発行

- ・年 11 回発行(11・12 月合併号) 34,650 部／回

##### (イ)点字・広報吹き込みボランティアによる定期的な支援の実施（合計 11回）

##### (ウ)市広報や和歌山放送及びFM TANABE等各報道機関へ積極的に情報を提供

##### (エ)ホームページ等での福祉情報の提供

##### (オ)イベントや社会福祉功労者表彰式の開催等による広報啓発活動の実施

##### (カ)サロン活動やミニ懇談会等による「ロコミ」による情報提供の実施

### (3) 地域福祉を支える基盤づくり

#### ①役職員等への研修推進

##### (ア)役職員研修会への参加

12月19日 福祉人材確保・定着フォーラム

介護ロボット和歌山フォーラム（ビック愛）

##### (イ)地域福祉フォーラムの実施

9月1日 福祉委員研修会（ハナヨアリーナ） 約400人参加

講演 「わたし、名前の無い仕事をしています、何か？」

講師 あそびの工房もくもく屋

コミュニケーションデザイナー 田川 雅規氏

#### ②安定的な財源の確保～福祉委員連絡会との連携

各種福祉事業へのボランティア協力をはじめ、社協会員の増強や、赤い羽根共同募金運動などに積極的な取り組みを行いました。

##### (社協会員)

・会員会費 7,561,370円（一般・団体・特別・法人会員計）

##### (赤い羽根共同募金運動)

・街頭募金運動

（田辺 10/1～2、6、龍神 11/23～24、中辺路 11/3、大塔 10/1、本宮 11/17）

・共同募金助成金 3,748,921円

### 3、たなべあんしんネットワーク活動の推進

今日的な生活課題（貧困、孤独死、虐待、認知症等）を未然に防ぐために、行政・地域住民とともに一人ひとりの生活課題を発見・把握できる仕組みづくりとして、声かけや見守り、「居場所」の提供等の小地域福祉活動の取り組みを支援しました。

また、全国的に地震や台風、豪雨災害等が頻発し、台風15号・19号災害では1名の職員を福島県に派遣し被災地支援活動を行いました。

災害時の支援体制づくりとして、小地域福祉活動を軸に広域にわたる連携事業として、広域・同時多発災害対応訓練（県社協主催）を実施する中、災害ボランティアセンターの運営方法等を再確認し協力・支援体制の構築に努めました。

#### (1) 小地域単位のコミュニティづくりの推進

～12地区の小地域単位の福祉活動（あんしんネットワーク）支援～

##### ①福祉委員連絡会の開催

市内12地区の福祉委員長・副委員長で構成する連絡会を開催し、福祉委員会活動や防災への取り組み等の地域福祉事業について話し合うと共に地区単位での懇談会も開催し、福祉委員（委員数991人）による小地域ネットワークづ



くりや世代間交流、ふれあいいきいきサロン等の活動を展開しました。

②地域福祉活動推進にかかる各種助成制度の運用

- ・ 地域福祉活動推進助成 17 件(448,022 円)
- ・ 福祉団体等活動助成 11 団体(1,551,000 円)

(2) 見守り・声かけ及び交流活動の実施

～地域課題を発見していくしくみづくり～

①見守り・声かけ支援

緊急連絡カード等の配布、ふれあい型配食サービス事業、愛の日事業、ボランティア温泉宅配事業、手作り味噌等の配布、年末高齢者訪問

②子育て世代の交流支援

ベビーマッサージとママサロンの実施、ちびっこあつまれ（子どもまつり）の開催、子育てサークル「ほっとスペース」活動支援、世代間交流

③地域性を重視した支援

介護用品のあっせん、霊柩車の運行（火葬送迎）

④住民交流活動拠点の機能強化

(ア)常設型地域リビング[よりみちサロンいおり]の充実強化

～多世代交流・多機能型の「居場所」の提供～

- ・ 開館日数 314 日 年間利用者数 6,642 人（1 日あたり 21 人）
- ・ 障がいのある若者の就労支援～コミュニティカフェの実施
- ・ まめひこカフェ（認知症カフェ）、ホッと講座、いきいきシニアリーダーカレッジ、あそびの教室、福祉のしごと塾、福祉のしごと相談等

(イ)巡回型地域リビングへの支援

- ・ ひとり暮らしの集いの開催・ふれあいいきいきサロンの開催等

(3) 地域を基盤とした防災活動の推進

～要援護者支援対策の整備～

①災害ボランティア活動支援

「台風15号及び19号」被災地支援活動(福島県本宮市及び郡山市)

- ・ 生活福祉資金(緊急小口資金)特例貸付に係る職員派遣

期間：11/27～12/1 職員 1 人派遣

②避難行動要支援者名簿を活用した顔の見える関係づくり

(ア)避難行動要支援者等への日頃からの声かけや見守り活動の実施

(イ) 緊急連絡カードの配布～市・民児協・自主防災会等と連携

③広域にわたる防災・災害の対応支援訓練への参加

令和元年度 広域・同時多発災害対応訓練の実施（県社協共催）

(田辺西牟婁(田辺市・上富田町・白浜町・すさみ町)災害時対応訓練事業実施)

日 時：令和2年1月18日(土)

場 所：田辺市立上秋津小学校 体育館

参加者：約300人(県内社協職員のほか、地元の町内会役員、民生委員等)

令和元年度 シニア災害ボランティアセミナー(県主催)への参加

日 時：令和2年1月19日(日)

場 所：田辺市立上秋津小学校 多目的ホール

参加者：約100人(県内社協職員のほか、地元の町内会役員、民生委員等)

④自主防災会組織運営助成制度 助成金交付決定数8件(69,000円助成)

#### 4、在宅福祉事業の運営

高齢化が進み地域共生社会の実現が求められる中で、介護保険制度の内容は一層複雑なものとなり、改正に伴う要介護利用者の減少等により収入が低下したことで運営は非常に厳しいものとなりましたが、障害者総合支援事業など関連事業との連携を行いながら進めました。

また、本年度も全事業で処遇改善加算を取得し、職員の賃金改善に取り組むとともに、知識や専門性を高めるための外部研修等にも積極的に参加し、利用者に満足頂けるサービス提供に努めました。

##### (1) 居宅介護支援事業 (全地区実施)

利用者からの相談や意向に基づき、介護サービス等を適切に利用できるように事業者や関係機関との連携を図りながら実施しました。また、基幹型及び地域型地域包括支援センターとの連携により介護予防サービス計画等を作成しました。

・ 居宅介護支援事業	実人数	529人	延べ人数	4,465人
・ 介護予防支援業務	実人数	176人	延べ人数	1,544人
・ 総合事業支援業務	実人数	184人	延べ人数	1,475人

##### (2) 訪問介護・介護予防訪問介護事業 (全地区実施)

在宅の要支援・要介護高齢者等を対象に、障害者総合支援法による居宅介護を含む、生活援助や身体介護等のサービスを提供し、田辺・本宮地区においては介護タクシー事業に取り組みました。また、田辺市より委託を受け、地域生活支援事業等を実施しました。

・ 訪問介護事業	実人数	222人	延べ人数	30,668人
・ 総合事業訪問介護	実人数	194人	延べ人数	10,778人
・ 介護タクシー事業	実人数	87人	延べ人数	306人
・ 居宅介護事業	実人数	47人	延べ人数	4,697人

・ 同行援護事業	実人数	12 人	延べ人数	862 人
・ 養育支援訪問事業	実人数	2 人	延べ人数	87 人
・ 障害者移動支援事業	実人数	2 人	延べ人数	75 人
・ 代読・代筆奉仕員派遣事業	実人数	7 人	延べ人数	505 人

(3) 通所介護・介護予防通所介護事業 (田辺・龍神・中辺路・大塔地区実施)

利用者の心身機能の維持向上や社会参加の機会を提供すると共に、介護者の負担軽減を図ることを目的として通所による介護サービスを実施しました。

また、田辺市からの受託事業として障害者日中一時支援事業にも取り組みました。

・ 通所介護事業	実人数	155 人	延べ人数	11,378 人
・ 総合事業通所介護	実人数	137 人	延べ人数	5,568 人
・ 障害者日中一時支援事業 (デイサービス)	実人数	12 人	延べ人数	826 人

(4) 訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護事業 (田辺・大塔地区実施)

自宅での入浴やデイサービスの利用が困難な状態にある利用者等を対象に移動入浴車による入浴サービス事業を実施しました。また、田辺市より委託を受け、身体障害者訪問入浴サービス事業を実施しました。

・ 訪問入浴介護事業	実人数	60 人	延べ人数	1,486 人
・ 介護予防訪問入浴介護	実人数	1 人	延べ人数	7 人
・ 身体障害者訪問入浴サービス事業	実人数	2 人	延べ人数	151 人

(5) 訪問看護・介護予防訪問看護事業 (龍神地区実施)

在宅療養中の高齢者等を対象に、各主治医の指示のもと、本人の状態に応じた看護を提供し、介護と医療の両面から在宅療養者を支援しました。

・ 訪問看護事業	実人数	31 人	延べ人数	859 人
・ 介護予防訪問看護	実人数	6 人	延べ人数	141 人
・ 訪問看護事業(医療)	実人数	3 人	延べ人数	133 人

## 5、受託事業の運営

田辺市からの受託事業は、全地区で実施する介護予防事業を中心に取り組み、田辺市や関係機関との協力はもとより、地域住民の理解・協力を得ながら事業を展開しました。

(1) 介護予防事業 (全地区実施)

一般介護予防普及啓発事業は、高齢者等が在宅で自立した生活を継続できるように

地域の集会所等において、集団での運動プログラムや啓発等を実施し、短期集中通所型サービス（総合型）事業では、個別の介護予防プランに基づき、介護予防体操や口腔・栄養改善等のサービスを提供しました。

また、本年度は介護保険制度改正の影響を受け、利用者が減少したことに加え、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業がすべて中止となりました。

- ・一般介護予防普及啓発事業 406 回
- ・短期集中通所型サービス事業 実人数 34 人 延べ人数 383 人

（2）配食サービス事業（龍神・中辺路・本宮地区実施）

食の自立支援と、高齢者への声掛けや安否確認を目的に実施しました。

- ・配食サービス事業 実人数 98 人 延べ人数 7,742 人

（3）保育所給食事業（本宮地区実施）

本宮地区の「たんぽぽ・ひまわり」両保育所へ給食を届けました。

- ・保育所給食事業 実人数 54 人 延べ人数 12,548 人

（4）外出支援事業（龍神・大塔地区実施）

公共交通機関の利用が困難な高齢者等に、地域の医療機関への通院を支援しました。

- ・外出支援事業 実人数 43 人 延べ人数 388 人

（5）高齢者生活支援ハウス運営事業（龍神・大塔・本宮地区実施）

自宅での生活に不安を抱える高齢者に、安心して過ごせる居住の場所を提供しました。

- ・生活支援ハウス運営事業 令和1年度末 入居者数 42 人（5 施設）

（6）老人憩いの家管理運営事業（田辺地区）及びうらら館管理運営事業（本宮地区）

老人憩いの家管理運営事業は、指定管理者として田辺地区の「松風荘」「やすらぎ荘」両館において、地域の高齢者の集いの場を提供しました。

うらら館管理運営事業は、本宮地区において地域住民の交流やサークル活動の場を提供しました。

- ・老人憩いの家管理運営事業 延べ人数 46,132 人
- ・うらら館管理運営事業 延べ人数 20,030 人

## 6、法人運営・基盤の強化

日本の労働人口減少等に対応するため制定された「働き方改革関連法」が施行され、本会においても、年次有給休暇5日取得義務化など短時間労働者を含む全職員への取り組みを進め、法令遵守に努めました。

また、課題となっている福祉人材の不足に対応するため、新規職員の採用や定年後の継続雇用、高年齢者雇用などに取り組むとともに、現任職員の資格取得や研修参加を推奨し、個々がスキルアップすることでサービスの質が向上するよう取り組んでいます。

財政面は依然厳しい状況が続いていますが、職員の処遇改善や労働環境の改善を行いながら、法に定められた社会福祉法人としての責務を遂行致しました。

### (1) 法人運営体制の充実と強化

理事会（4回）、評議員会（3回）、正副会長会議（6回）、監事の業務監査（1回）、評議員選任・解任委員会（1回）を開催し、法人の健全な運営に努めました。

また、それぞれの地域の課題に対応するため地区運営委員会（龍神2回、中辺路2回、大塔2回、本宮4回）を開催し、地域福祉の推進・向上に努めました。

### (2) 財政基盤及び管理の強化

社協会員会費や寄付金、善意銀行預託金などの貴重な浄財を受け入れるとともに住民の善意である福祉基金を国債等の安全・確実な有価証券として管理し、その運用益を広く地域福祉の推進に活用しました。

- ・ 会員会費            7,561,370 円（一般・団体・特別・法人会員計）
- ・ 寄付金              3,993,281 円（111 件）
- ・ 善意銀行預託金    193,000 円（25 件）
- ・ 福祉基金運用益による地域福祉事業還元額    4,158,000 円

### (3) 職員の専門性の向上と働きやすい職場づくり

地区別・職種別に各種内部研修の実施や、外部研修への積極的な参加、伝達研修の充実など、職員の専門性の向上に努めました。

また、ストレスチェックの実施や産業医による感染症対策の研修を行うなど、職員の健康管理や職場の衛生管理への取り組みを進めました。

- ・ 研修回数（内部研修 20 回・外部研修 183 回）計 203 回  
参加延べ人数    827 名
- ・ 新任職員研修、介護職員・介護支援専門員等専門職研修、障害及び各種疾患理解、成年後見制度、人権研修、交通安全対策等

(4) 社会福祉功労者の表彰

令和2年2月14日、「明日へのかけ橋フォーラム」を開催し、第一部 社会福祉功労者表彰式において、永年地域福祉活動に寄与貢献され、その功績が顕著であった方々に表彰・感謝状を贈りました。

＊表彰の部 2人

＊感謝の部 2人

2団体